兵庫県保険医協会
西宮芦屋支部ニュース
No. 281
2010・1・5

謹んで新年のお慶びを申し上げます

西宮・芦屋支部世話人一同

患者様やご家族から学ぶもの

保険医協会は11月21日、西宮神社会館で第22回在宅医療研究会を開催。医師、看護師ら130人が参加した。講演①は「グリーフケアと訪問介護の実戦」と題して看護師の中島淳美さん（明和病院・訪問看護センター明和）、講演②は「当院における終末期ケアの現状」と題して看護師長の小西尚美さん、特別講演は「グリーフケアの考え方と課題」と題して坂口幸弘先生（関西学院大学・人間福祉学部人間科学科准教授）を、それぞれ講師に迎えた。参加者からの感想文を掲載する。

講演する坂口幸弘先生

講演には会場いっぱいの130人が参加した

今回、たいへん有意義な研修会に参加させていただき有難うございました。スタッフとともに行っている日頃のケアについて、改めて考える機会になりました。

「グリーフケアと訪問看護の実践」と題した中島看護師の講演では、彼女の看護観や優しさが皆様に伝わり、訪問看護師への理解・期待が高まれば良いなぁ…と感じました。

兵庫医大・地域医療総合相談センターの小西看護師の講演「当院における終末期ケアの現状」では、大学病院から退院される患者様の支援についてのご苦労を感じ取りました。

兵庫医大と連携させていただいている訪問看護事業所では、総合相談センターの存在はたいへん貴重です。終末期ケアと一口に言っても、疼痛や副作用などの症状コントロールや家族ケア、経済的な支援など、退院支援には数々の調整が必要になります。同センターの情報は医療的なケアはもちろん、入院から在宅をつなぎ、訪問看護事業所が欲しい情報をタイムリーに提供して下さる場所であり、たいへんありがたい部署です。

特別講演では、関西学院大学人間福祉学部の坂口先生が「グリーフケアの考え方と課題」をお話されました。看護の実践の中で「お金にならないこと」でも、丁寧にケアをすることは間違っていないと実感しました。

グリーフケアは患者様にとって必要か？悩ましい話題ですが、訪問看護ステーションネットワーク西宮のほとんどの事業所が、グリーフケアを続けているという実績から考えても、患者様やご家族から学ぶことと共に、それを通じて喜びの声が聞かれるからではないでしょうか？

今後も「悲嘆」へのケアを学び、心のこもった対応に努めたいと思います。

【医療法人明和病院訪問看護センター明和　管理者（看護師）　西田　奈美】

発行　兵庫県保険医協会　西宮・芦屋支部
〒662-0074　西宮市石刎町十八ー八　大森内科医院内
連絡先　兵庫県保険医協会　電話　〇七八（三九三）一八〇一

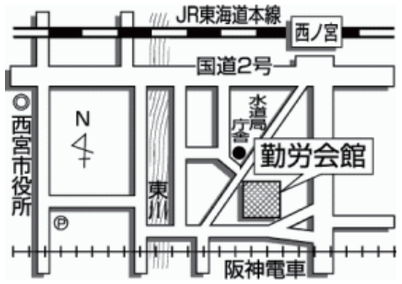
兵庫県保険医協会・協会西宮芦屋支部

阪神・淡路大震災 15 年の集い

【日時】１月１６日（土）午後１時～

【場所】西宮市立勤労会館　西宮市松原町２－３７

（JR 西宮駅南へ徒歩 10 分）
TEL/0798-34-1662



入場無料

■病気の悩みなんでも相談コーナー　13:00 ～ 13:50　第 7 会議室

■救急処置・心肺蘇生（AED）実習コーナー
13:00 ～ 13:50　第 8 会議室

■映像とパネルによる災害・復興の記録展示（常設展示）
13:00 ～ 16:30　第 8 会議室

◆追悼の歌　13:50 ～ 14:00　大ホール
＜アヴェマリア＞＜はなれていても友だちだよ＞
ソプラノ　長谷川 眞弓 さん　ピアノ　榊原 契保 さん

■おはなし　14:00 ～ 15:50　大ホール
「大震災被災者の生活と健康」
日本福祉大学名誉教授　金 持 伸 子　先生
「生活を基礎にした減災の考え方」
関西学院大学総合政策学部教授　室 崎 益 輝　先生
「災害時の医療　ー避けられる死をなくするためにー」
兵庫県災害医療センター顧問　鵜 飼　卓　先生

◆二胡の調べ　16:00 ～ 16:30　大ホール
二胡演奏者　劉　揚　さん

■ボランティア・医療関係者の集い　16:40 ～ 19:00　第 8 会議室
講演　「災害時に医療機関の果たす役割～東京都中野区医師会防災マニュアル～」　東京都中野区医師会　中 村 洋 一　先生
世界各地での災害とその復興の取り組み／ミニコンサート
報告・交流会
＜旧西宮芦屋支部緊急対策本部＞ボランティア・市民・協会会員

※ご都合のいい時間帯でご参加ください。お待ちしております。

第23回漢方研究会（薬科部共催）

明日からすぐ応用できる研究会

12月12日、兵庫県農業会館で、講師に野木病院副院長・東洋医学科部長の加藤士郎先生を迎え、「かぜ症候群の漢方療法」をテーマに第23回漢方研究会（薬科部共催）を開催。医師・薬剤師ら42人が参加した。広川恵一先生（広川内科クリニック）とともに司会を務められた長光由紀先生（伊丹市・ウイング調剤薬局）の感想文を掲載する。

具体的な症例を紹介しながらの講演に会場からも質問が相次いだ

12月12日、光の祭典に彩られた神戸元町での開催。研究会で学びルミナリエを楽しみ、歳末の中充実した時間を過ごすことができました。ただ、駅から会場まで30分もかかってしまった参加者もおられ申し訳なかったです。

元独協医大講師、現野木病院副院長の加藤士郎先生を迎えての西芦支部漢方研究会（薬科部共催）が「かぜ症候群の漢方療法」をテーマに開催されました。

最初に『かぜ症候群に対する漢方治療のEBM』。図やグラフを用いて麻黄湯類の有効性について解説をいただきました。特に小児インフルエンザにおいては麻黄湯単独投与で有熱期間が最も短いということで、タミフルドライシロップが底をついてきた現状に　麻黄湯の処方がお勧めであると自信を持つことができました。

次々『かぜ症候群の初期治療』には麻黄を含む方剤、『長引いたかぜ症候群の治療』には柴胡剤や麦門冬湯と構成生薬の解説もを紹介されました。

最後に『遷延化した呼吸器感染症治療のセカンドステップ』として、漢方治療が有効であると改善度のグラフでわかりやすく解説。実際に何日目から漢方治療を加え投与何日目に改善、症状消失といった例を多数みせていただき、明日からすぐ応用のできる内容でした。

また随証に従いその患者にあった補剤で日頃から体力を強化し　免疫力を高めておくことが大切という言葉に、かぜ症候群にかぎらず『身体を守る』という原点をあらためて確認できました。

【伊丹市・ウイング調剤薬局　長光　由紀】

英語で診療 Medical English #24

婦人科での臨床を具体的に

参加者一人一人に丁寧な発音指導をする Robert Conroy 氏

12月4日、西宮医療会館で、林田英隆先生（林田クリニック）をアドバイザーに、Medical English #24「子宮頚部がん&乳がん検診」を開催。医師や医療通訳ら11人が参加し、熱心な英語表現の練習がなされた。

子宮頚部がんの予防接種であるHPVワクチンは、日本では先進国よりも2～3年遅れで2009年10月に厚生労働省によって認可されたもので、思春期から20代の女性に対し、およそ80％の発がん予防効果があるとされ、今後は一般科での接種も期待されている。

乳がん検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査の特徴について質問がなされ、マンモグラフィーは、一般的に乳腺の発達した若い女性では診断が容易ではないが、閉経後の乳腺が萎縮して脂肪が多い女性には診断が容易になること、超音波検査は、乳腺が発達した若い女性の腫瘤を診断するにあたり、マンモグラフィーと併用することで診断確率が高まることなど、婦人科領域の臨床が具体的に示された。また、lump（皮下のこぶ、腫れ、しこり）とmass（凝集性物質の塊または集塊）の違いや、超音波検査での「11時の場所」という言い回しなど、実践的な英語表現についても学んだ。

参加者からは、「非常に参考になった」、「専門用語が多く、大変勉強になった」などの感想が寄せられた。

次回は、3月に「関節リウマチ、骨粗鬆症」をテーマに開催を予定している。

世話人会だより

西宮・芦屋支部は11月27日（金）にフレンテ西宮で世話人会を開催した。出席は5人。

【報告】
①第14回医療過誤訴訟セミナー（11・14）
②第22回在宅医療研究会（11・21）

【予定・企画】
①英語で診療#24（12・4）
②第23回漢方研究会（薬科部共催）（12・12）
③会員忘年会（12・29）
④阪神・淡路大震災15年の集い（1・16）
⑤第23回在宅医療研究会（3・13）
⑥英語で診療#25
⑦診療報酬改定研究会（医科）（3・24）
⑧病診連携、勤務医と開業医の懇談会

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

第23回在宅医療研究会

日時：3月13日（土）15時～17時半
会場：西宮神社会館　TEL0798-23-3311
講演：「摂食嚥下障害の話題」（仮）
大阪大学歯学部付属病院 顎口腔機能治療部　助教
野原 幹司　先生
「栄養・食事関係の話題」（仮）
武庫川女子大学生活環境学部 食物栄養学科　准教授
前田 佳予子　先生